



平成 30 年 10 月 24 日 (水) 名古屋市立栄小学校にて
「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」
「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」の出前授業・E プロを開催：
特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構 (NPO J-DO) と共催

名城大学薬学部では出前講義の一つとして、高齢者や小学生に「くすり」や「薬物依存」のことを知ってもらう授業や体験実験を特定非営利活動法人医薬品適正使用推進機構 (NPO J-DO) の協力の下に行っています。今年度は名城大学 Enjoy Learning プロジェクト (通称：E プロ) の薬学生と共に行いました。

名古屋市立栄小学校 (森 久晃校長) の養護教諭 坪野正子先生のご尽力により、平成 30 年 10 月 24 日 (水)、名古屋市立栄小学校にて「くすりの正しい飲み方：くすりと安全に安心して付き合う」「くすり教室：実験講座」「薬物乱用・依存」を下記の内容にて開催しました。当日は、6 年生の児童 20 名が「くすり」について学び、「色が変わる実験が面白かった」「また実験したい」と大好評でした。E プロとしては 5 回目の開催となりました。

名古屋市立栄小学校における「くすり教室」

日時：平成 30 年 10 月 24 日 (水) 10 時 45 分～11 時 20 分

場所：名古屋市立栄小学校 ホール 1

内容：

・「実験を始める前のお話」：Q&A 方式

くすりをどのように飲んだら良く効き、副作用を防ぐことができるか、Q&A 方式で小学生が答える、児童参加型で行いました。学部 5 年の武藤利奈ががスライドを使って、わかりやすく説明しました。小学生は元気よく挙手して活発に問い掛けに答えてくれました。

・「体験実験」

学部 5 年の中村真理子がスライドを使って実験の説明をする中、小学生は 4 グループ (1 グループ 5 名) に分かれ、内容をより理解できるように、鍋島俊隆先生 (NPO J-DO 理事長)、名城大学薬学部 野田幸裕教授 (NPO J-DO 副理事長)、間宮隆吉准教授 (NPO J-DO 理事)、薬学生 (病態解析学 I 5 年生 6 名、薬品作用学研究室 5 年生 2 名) が補助しながら、体験実験を行いました。

<実験項目>

1. コップ一杯の水かぬるま湯で「くすり」をのむのはなぜ?
2. 水がなくても飲める薬があるのを知ってる?
3. 「くすり」を「お茶」で飲むとどうになってしまうの?
4. 「うがいぐすり」でうがいした後に、すっぱい食品を食べるとどうになってしまうの?

制作：名城大学薬学部病態解析学 I
(中村真理子、武藤利奈、野田幸裕)
薬品作用学 (間宮隆吉)
監修：NPO J-DO (鍋島俊隆)



名古屋市立栄小学校における授業

「乱用薬物には絶対に手を出さない！」

日時：平成30年10月24日（水）11時25分～12時25分

場所：名古屋市栄小学校 ホール1

内容

・「乱用薬物には絶対手を出さない！」：講義

どのような薬がドラッグとして乱用されているか、薬物乱用はどのように怖いのか、乱用されているくすりの正しい情報、薬物乱用者の実態、薬物乱用に対してみんなができることについて、野田幸裕教授がスライドを使用して分かりやすく説明しました。講義中には、「タバコによって成長はどうなってしまうのだろう？」については連続写真を用いて、「シンナーを吸うと体はどうなってしまうのだろう？」については各グループにおいて薬学生によるデモ実験を行いました。児童からは「タバコを吸うと成長がとまり、肺は真っ黒になるんだ！」「シンナー（アセトン）で発泡スチロールが縮んで無くなった、脳も縮んでしまう」という声が多く聞かれ、薬物乱用の恐ろしさについてしっかりと視覚的に理解が深められました。

